

(新) 希少猛禽類等保護方策検討調査費

30百万円(0百万円)

自然環境局野生生物課

1. 事業の概要

里山で営巣し、周囲の水田等で採餌するサシバ等の猛禽類において近年個体数の減少が見られており、サシバは平成18年12月に行われた環境省レッドリストの更新の際にランク外から絶滅危惧類にランクが上がった。

また、生息地が開発にさらされることが多く、開発行為との調整を巡る問題が顕在化している。

さらに、砂浜や埋め立て地で繁殖するコアジサシにおいても、繁殖地周辺で開発が行われる事例が多く、その際に代替の繁殖地の創出等の保全措置が事業者により行われることがあるが、その効果について不明な点も多い。

このため、本事業において、サシバ等について、生息状況や開発行為による影響について把握するとともに、効果的な保全策の検討を行い、事業者が環境影響評価等により保全策を検討する際に参考となるガイドラインを策定するとともに、コアジサシについて各地で行われている保全措置の事例をもとに、効果的かつ効率的な保全策の検討を行うものである。

2. 事業計画

(1) サシバ等ガイドライン策定(平成22年度～24年度)

(2) コアジサシ保全手法検討(平成22年度～23年度)

3. 施策の効果

サシバ等のガイドラインを策定することで、開発行為とサシバ等の保全に関する調整の円滑化と事業者による効果的な保全策の推進が期待できる。

また、コアジサシについても効果的かつ効率的な保全策を明らかにすることで、事業者による保全の取組が推進されることが期待できる。

希少猛禽類等保護方策検討調査費

1. サシバ等ガイドライン策定



サシバ等の保護が注目される一方開発行為との調整を巡る問題が顕在化

レッドリストに掲載

個体数の減少

生息状況の把握

効果的な保護策の検討

サシバ等保護ガイドライン

開発を行う際の配慮事項や効果的な保全策の明確化

サシバ等の保護の推進

開発行為との調整の円滑化

2. コアジサシ保全手法の検討



減少要因

繁殖地周辺での開発

生息環境の悪化

各地の事例の収集

各種保全手法の検証

効果的な保全手法の明確化

コアジサシの保護の推進